

10. 異端の概念

Q: 異端とは?

正統⇔異端≠異教

キリスト教ではアタナシウス派とアリウス派（イエスは神ではない）がお互い異端だと責め合った。ガリレオが主張した地動説は異端とされたが、科学的に正しいことが証明された。

今日のキリスト教は…

『群盲象をなでる』

部分的には正しいが、それぞれ完全ではない。

マタイによる福音書 7: 1~5

互いに異端だと責め合っている。

コリント人への第一の手紙 4: 5

完全な真理を持った主が来られるまでお互い裁いてはならない

コリント人への第一の手紙 6: 5~7

神様やイエスを信じて争うなら信じないほうがいいではないかと言われる。

使徒行伝: 24: 1~5 p.223

パウロが訴えられた場面。パウロの教えは疫病のようで、イエスを異端の頭だと言われた。

使徒行伝 5: 33~42

ペテロが教えを広めているときに議会に引き渡された場面。律法学者ガマリエルが、もしイエスが自分の考えでやっているなら滅びるが、神様の考えなら滅びないと。

Q: 神様から見た異端とは?

ヨハネの第一の手紙 2: 18 p.337

反キリスト=異端

ヨハネの第一の手紙 2: 22~23

異端=イエスがキリストであるということを否定すること。今の時代は再臨主がキリストだということを否定すること。

ヨハネの第一の手紙 5: 1~5

イエスがキリストであると信じるのが正統。

ヨハネの第一の手紙 4: 2~3

イエスが肉体を持ってきたことを否定するのも異端。今の時代は再臨主が肉体を持ってくることを否定すること。

ヨハネの第二の手紙 7

同上

人間を救うのは人間しかできない。

ヘブル人への手紙 2: 17~18 p.345

貧しくて自分は どうしてこんなに苦しいのかともがき誰よりも救い主を求めた。ヘブル 5: 7 参照

マタイによる福音書 12: 1~14

律法では安息日は働いてはいけないだったが、イエスは人を癒した。もし羊が穴に落ちたら助けるのに、羊より尊い人間を癒してはいけないというのはおかしい。

ヨハネによる福音書 10: 35~39

イエスは、自分は神様の子だと言った。律法を破っていると言った。

マタイによる福音書 5: 17

イエスは律法を成就しにきた。

ローマ人への手紙 13: 8~10

愛は律法を包括する。

マタイによる福音書 23: 37~39

エルサレムは見捨てられる。

マタイによる福音書 27: 25

イエスを十字架にかけるとき、子孫も血の責任を取るといった。

マタイによる福音書 5: 34~48

完全になりなさい。

ユダヤ人は普段から高慢だった。

マタイによる福音書 22 : 34~40

律法で大切な戒めを守っていないユダヤ人は神様からみたら異端。

人が異端だといっても神様が異端じゃないといたら、異端ではない。